

人を対象にし、常に人と

接し、人に影響を与える「教

員」という職業のストレス

は、教員同士であれば容易

に推測できるでしょう。子

供を取り巻く健康課題は、

次から次へと蓄積される中

で、属人的対応が多くを占

める「養護教諭」は、職務

の特性から、常に適切な対

応が求められています。

子供の背景も個々に異なり、

正解がある事例ばかりでなく、

その成果が見えにくいことも多いです。

また、その多くは一人配置である一方、

着任したその日から、ベテラン養護教諭と同様の

対応を、教職員保護者、子供たちから求め

一 心の悲鳴に耳を傾ける 一

連載

られるという現状もありま

す。
学校関係者以外には
伝わりにくい職務

今や養護教諭の教員採用試験は最難関ですが、合格した学生に学校関係者以外の人は「暇だからその職業にしたのでしょ」と聞くそうす。担任を持たず、授業がなく、いつもゆつたりと構え、話を聞くモードになっていく養護教諭に対して「保健室で一人の時に何をしているのだろう」と思うのかもしれない。

養成課程の学生の気づき

したある学生の話です。「保健室には子供たちが

養護教諭の多忙感や幅広い職務、状況に応じた様々

な対応の必要性などを他者にどのよう伝えるか、その難しさを実感しつつ養護

教諭の養成に携わり、2年

が経過しようとしていま

重大だと感じました」

先

生方の来室理由も様々で、

「クラスのAちゃんが、給食を食べないのです。なに

いさつも含め、それら一つひとつに意味がある」と

彼女が学んだようです。どれも担任はもちろん養護教諭にとっても情報収集の機会であると同時に、貴重な情報源です。その積み重ねこそが信頼関係を結び、さらに情報の共有、何

周囲のサポートで成長し

ゆつたりとした心で構える

す。その間、教える立場である一方、

学生の会話から逆

逆

逆

かされていきます。初めての保健室ボランティアに参加

「今日は寒いね」というあ

か

か

か

か

か

か

の時には気づかなかった新たな発見のようです。

養護教諭の毎日は、いつ、どんなことが起きるか、どんな相談が舞い込むか、予測不能で予定が立たない緊張の連続です。命に直結することへの対応を迫られることもあります。そして、

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

必

過去記事は
www.kknets.co.jp

養護教諭の存在、養護教諭の心構え

決への「周囲のサポート」という「実」を結んでいくのではないだろうか。養護教諭を退職する際、何通かお手紙をいただきました。そこには「笑顔でいつも声をかけていただいた」「先生に会うとほっとする」という言葉が並んでいました。「互いの立場を理解し、大切に思うこと」ここから「サポート」は始まります。

過去記事は
www.kknets.co.jp